科目ナンバリング	U-LAS70 10001 SJ50						
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー ：公共政策と社会科学 ILAS Seminar :Public Policy and Social Sciences			担当者所属 職名・氏名	工学研究科　教授　　藤井　聡 工学研究科　准教授　川端　祐一郎		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・開講期	2025・前期	受講定員 (1回生定員)	25 (15) 人	配当学年	主として１回生	対象学生	全学向
曜時限	火5	教室	共西12			使用言語	日本語
キーワード	公共政策 / 社会科学 / 社会思想 / 政策決定 / 理論と実証						

[授業の概要・目的]

【当初、本科目の定員を15名としていたが、25名に修正した。】
公共政策は、単なる市民の多数決やリーダーの独断によって決まっているわけではなく、またそうあるべきでもない。政策の背景には強かれ弱かれ、決定を方向づけたり根拠づけたりする「理論」や「実証」など知的な努力の積み重ねが存在する。
この科目の第I部（前半）では、公共政策と社会科学を大きく方向づける「パラダイム」（土台となる考え方や世界観）の対立に注目しながら、政策を考える上で必須の理論と思想を学んだ上で、現実の社会問題にどのように適用し得るかについてディスカッションを行う。
そして第II部（後半）では、具体的な政策課題をめぐって、学術研究論文で示された実証的エビデンスを学ぶとともに、それらのエビデンスに基づきどのような政策が望ましいと考えられるかについてディスカッションを行う。

[到達目標]

社会科学の思考法や実証的知見を学び、公共政策のあるべき姿を検討する上で必要となる基本的な素養を身につける。
具体的な公共政策事例について、自身の考えを具体的整理し、表現するための基礎的な技量を身につける。

[授業計画と内容]

【第I部】理論と思想――公共政策と社会科学を方向づけるパラダイム（７回）
・「民主主義」と「権威主義」（藤井）
・「グローバリズム」と「ナショナリズム」（藤井）
・「保守主義」と「リベラリズム」（藤井）
・「緊縮財政」と「積極財政」（藤井）
・「現実主義」と「理想主義」（国際関係）（川端）
・「社会契約説」と「有機体国家論」（川端）
・「政教分離」と「祭政一致」（川端）

【第II部】実証と実践――学術的エビデンスに基づく公共政策の検討（７回）
・新幹線・高速道路等の大型インフラ投資は時代遅れなのか？（藤井）
・「多様性」はよい社会を作るのか？（川端）
・「東京一極集中」は望ましいのか？（藤井）
・感染症対策のために「ロックダウン」（都市封鎖）を行うべきか？（藤井）
・死刑は廃止すべきなのか？（川端）
・自殺はどうすれば減らすことができるのか？（川端）

ILASセミナー ：公共政策と社会科学(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー ：公共政策と社会科学(2)

【その他】初回ガイダンス及び総論（1回）、フィードバック（1回）

※具体的なトピックは授業計画のとおりだが、ディスカッションの進行や参加者の関心を踏まえて多少調整する場合がある。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末試験60%（論述式）
平常点40%（授業内ディスカッションへの参加度、レポート提出等）
詳細は授業中に説明する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

各回のテーマにあわせて授業内で事前に指定する文献（論文など）を読んでおくこと。

[その他（オフィスアワー等）]

この授業についての不明点は、以下のアドレスあてにメールで質問すること。
川端祐一郎（准教授）
kawabata.yuichiro@trans.kuciv.kyoto-u.ac.jp

[主要授業科目（学部・学科名）]